

2010年4月23日

有楽町駅頭街頭演説会

○政権交代と新たな閉塞感

昨年の8月30日、日本は55年ぶりの本格的な政権交代を経験しました。

私たちの自由民主党は、高度経済成長と日米安保を中心とした安全保障政策、この二つの柱で戦後の日本を創ってきた政党です。

しかし、長い間政権を任せていただいて、私たちもその座に安住したところがありました。

「一度政権交代をしたらもっとのびのびとした、見通しの良い政治ができるのではないか」

閉塞感をお持ちになった、多くの有権者の皆さんにそのような思いを抱かせたのは我々の責任です。

そして、そこに民主党がいたから、「一回、民主党にやらせてみよう」

こういうことで、去年の政権交代があったと私は思います。

しかし、あれから何ヶ月たったのでしょうか。

皆さん方の期待、閉塞感を打破することができたのでしょうか。

そうではなかったということ、皆さんも今、ひしひしと感じておられるだろうと思います。

○鳩山政権の三つの大罪

今の政権には三つの問題点があります。

第一は、子供手当をはじめ、さんざんばらまきをしているが、裏付けとなる恒久財源は何にもない。

だから、このまま続いていけば日本の財政は破綻をする。日本は破綻する。

そしてそれは単に政府が破綻するというだけでなく、国民生活の基礎そのものが掘り崩されてしまう。こういう危険を、今ひしひしと、感じておられると思います。

二番目。先日、総理はアメリカに行かれました。しかし、アメリカの大統領から日本の総理大臣はまともに相手にされなかった。

アメリカと日本は同盟国です。今の政権の外交政策が同盟国にすら信頼をされていないということが明らかになったのです。

日本が世界に立って歩んで行く、その基礎が掘り崩されている。いまの政権の二番目の罪

です。

そして、三番目。

マニフェスト違反。

高速道路料金の問題。無料化するはずだったのが、いつの間にか実質値上げ。しかしこの決定も前原大臣と小沢幹事長の間で綱引きがあるというような状況です。

ガソリンの暫定税率はなくすということだったがそれもできなかった。

数々のマニフェスト違反があります。

政治と金の問題もいろんなことがありました。昨日は総理の元秘書に有罪判決も出ました。しかし、こういうマニフェスト違反、政治と金の問題に対し、今の政権には誰一人として責任を取る人がいない。このことが、一番大事な国民と政治の信頼関係を完全に掘り崩している。

この三つの大罪を、皆さんが、今、ひしひしと感じておられるところに私は新たな閉塞感がおきてきていると思います。

○自民党 反省とチャレンジ

しかしながら、私たちも反省をしなければなりません。

「民主党がこの体たらくなのに、本来ここで頑張らなくてはならない自民党はいったいどうしているんだ。党の中で権力闘争を続けているではないか」

「日本の明日をどうしていくんだ、自民党だったらこうしていくんだ。そういうヴィジョンをしっかりと示せていないではないか」

こういうご批判をいただいていることに、われわれは真摯に反省をしなければならないと思います。

私たちは自らを生まれ返らせて、新しい政治に挑戦していかなければならない。

自民党は古い政党ではありますが、衣を替え、自らの体質を変えてチャレンジャーにならなければならないと思います。

○自民党 政策の三つの柱

では、私たちはチャレンジャーになって何をやっていくのか。

自民党の求める新しい政治とは何なのか。

第一に、これから三年間、あらゆる金融政策、税・財政政策、成長政策。これを総動員し

て景気を良くし、雇用を創っていかなければなりません。

日本人は勤勉です。日本人が誇りを持って、自信を持って生きていくためには、仕事が必要ならばなりません。そのためには企業に成長してもらわなければなりません。

そういう政策を思い切ってやり、貧困の問題や、地域格差の問題を日本全体を底上げすることによって、徹底的に解決していく努力を、ド真剣にやらなければならないのが第一です。

二番目。国民に迎合して、ばらまきを続けるような政治は、いま、ただちにやめなければなりません。

そのためには、私たちは苦しくても、本当のことを言わなければなりません。

今の財政の状況を国民の皆様にも正直に申し上げ、消費税を含む大きな税制改正をお願いしなければならぬことを、正直に訴えていく必要があります。

第三に、いま破壊しつくされた日本の国際社会で立っていくための信頼の基礎である、外交政策、安全保障政策をもう一回再構築しなければなりません。

そしてそのためには、日本だけが良ければいいのではなく、日本のできることで世界の平和のために、日本も一生懸命努力をする。その姿をもう一回創らなければならないと思います。

○自民党 立ち位置を固める

しかし、こういう新しい政治をやっていくためには、自民党はどういう足場に立って、こういうことをやろうとしているのか。保守政党としての立ち位置をもう一回しっかり掘り下げなければなりません。

それは何か。

日本国と日本国民にとって大事なことは、徹底的に守っていく。

このことを、自民党は土性骨を据えてやり抜くことです。

それは日本の安全保障でもあります。

家庭や地域の絆をもう一回しっかりしていくということでもあります。

先輩たちから伝えられてきた、日本の良き伝統や歴史をしっかり守って、それを次世代に伝えていくということでもあります。

そして、大事なことは、一生懸命まっとうに努力している人が、まっとうに幸せになるように我々は努力していくことでもあります。

そして、そのことをやり遂げるためには、自民党自身が変革を恐れてはいけません。自民党

自身が進取の気性を持って自らを生れ返らせて、新しい挑戦を続けなければいけないということでもあります。

○参議院選挙に向けての覚悟とお願い

7月には参議院選挙があります。この参議院選挙、自由民主党にとっては、再起できるかどうか瀬戸際の選挙でもあります。

しかし、いままで申し上げたことをキチッと意識すると、7月の参議院選挙を、われわれはただわれわれが再生し生き延びるために戦えばいいなどということはみじんも思っておりません。

三つの大罪を犯している民主党の政治。

この政治に歯止めをかけなければいけないのが、7月の参議院選挙です。

この参議院選挙に勝利をすることが、国民から負わされている使命であることを、私たちが骨身にしみて自覚して、これから参議院選挙まで死に物狂いで戦い続けなければならない。

このように覚悟を新たにしているところです。

7月の選挙で必ず勝利をして、参議院で今の与党で多数を占めている体制を打ち破り、この日本の基礎を破壊する政治に必ず歯止めをかける。

そのために私どもは真正面から戦ってまいります。

どうか、自由民主党に対して皆さまから温かいご支援を賜りますよう、心からお願いを申し上げます。